

令和3年度 県立日立工業高等学校自己評価表（定時制）

目指す学校像		<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりの能力・適性・個性を伸ばすとともに「自ら考える力」を育て、創造力豊かな人間の育成をめざす学校 社会の変化に主体的に対応できるよう望ましい人間関係を築かせ、社会で自立できる心身ともに健康な人間の育成をめざす学校 「ものづくりを通した人づくり」の工業高校の伝統を継承し、生徒一人ひとりの夢や希望の実現を支援していく学校 					
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況			
【昨年度の成果】 職員の意思統一・生徒情報の共有を図り、授業規律を確保し、基礎学力を定着させることができた。 定通大会全国大会に5年連続（昨年度は中止）で出場している。学校行事に、多くの生徒が積極的に参加し、充実した学校生活を送ることができた。 【今年度の課題】 学習意欲の向上と資格取得への意識の高揚を図る。 学校行事のさらなる充実を図る。 欠席や遅刻数の多い生徒への指導体制を充実させる。	基礎学力の向上と定着	①生徒の能力実態に応じた題材や単元を選択し、わかる授業・興味関心を高める授業を展開する。 ②授業規律の確立に努める。 ③3年間でも卒業できるメリットを活かし、学習意欲の向上を図る。	B	B			
					全職員の一体化とコミュニケーションの重視	④全職員による生徒の規範意識の高揚、マナー向上に取り組む。 ⑤全教職員の連携を図るため積極的な情報交換に努める。	A
	生徒の帰属意識の高揚	⑨特活部を中心に、校外学習・クラスマッチなどの学校行事の充実を努める。 ⑩継続的な部活動を奨励し、定通体育大会での入賞を目指すことで自己有用感を高める。	B				
				地域への積極的情報発信 地域との連携	⑪中学校訪問を積極的に行い、本校定時制総合学科の存在意義をアピールする。 ⑫定期的なホームページの更新、フォトニュースへの投稿に努める。 ⑬地域の人的・物的環境を生かし、教育活動の向上を図る。	C	
	総合学科の確立	⑭県内唯一の定時制・工業高校総合学科として、独自性を図り、充実を目指す。	B				
	働き方改革の推進	⑮自らの人間性や創造性を高め、生徒に対して効果的な教育活動を行うよう努める。	B				
	三つの方針		具体的目標		評価	次年度（学期）への主な目標	
	「三つの方針」（スクールポリシー）	「育成を目指す資質・能力に関する方針」（グラデュエーション・ポリシー）	生徒一人ひとりの能力・適性・個性を伸ばすとともに「自ら考える力」を育て、創造力豊かな人間を育成します。 社会の変化に主体的に対応できるよう望ましい人間関係を築かせ、社会で自立できる心身ともに健康な人間を育成します。 「ものづくりを通した人づくり」の工業高校の伝統を継承し、夢や希望の実現のために可能性を伸ばし、自分の能力を高め努力する人間を育成します。	B	B	学校行事のさらなる充実を図る。	
		「教育課程の編成及び実施に関する方針」（カリキュラム・ポリシー）	県内で唯一の単位制総合学科で、「普通系列」・「工業系列」自分に合った学びができ、さまざまな進路に応じた支援を行います。 基礎学力の定着に重点を置き、義務教育内容の学び直しも含め、基礎基本を重視した教科指導を行います。 通信制課程の高等学校との併修制度を利用し、3年間で卒業できる「3修3卒制」を行います。（希望者対象で、2・3年次での実施となります）	B		学習意欲の向上と資格取得への意識の高揚を図る。	
「入学者の受入れに関する方針」（アドミッション・ポリシー）		これまでの自分を見つめ、いろいろなことを基礎から勉強し、自分らしく生きていくためのベースをつくりたいと願っている生徒。 自分と他者の良さを大切にし、お互いに励まし合い、協力し合い、学校生活においておどやかで健全な人間関係を築こうとする生徒。 高校卒業後の社会的自立と進路希望の実現に向け、各種資格・検定に挑戦するなど、自分の能力を高めようとしている生徒。	B	欠席や遅刻数の多い生徒への指導体制を充実させる。			
評価項目	具体的目標	具体的方針	評価	次年度（学期）への主な目標			
教科指導	基礎学力の定着を図る。	シラバスに沿ってわかる授業を展開し、基礎学力の定着を図る。 ①	B	B	ICT機器を活用した授業を実施。		
		指導方法などを工夫し、生徒の実態に応じた授業を展開する。 ①	B				
教 科	国 語	生徒の実態に応じた授業を展開して、基礎学力の向上と定着を図る。 ①	A	B	基礎学力を身につけるための授業展開を工夫する。		
		指導方法や教材を工夫し、自己表現力の向上に努める。 ①	B				
		漢字検定試験の受験級を各自が設定して学習することで、基礎学力の向上を図る。 ①	C				
	成績不振者に対する適切な指導	生徒の実態に応じた適切な支援を行う。 ①	B				
	地 歴 ・ 公 民	基礎学力の定着化を図る	基礎を繰り返し学習することにより、基礎学力の定着化を図る。 ①	B	B	自己肯定感、自己効力感を高めるための質問の工夫。ICT機器を効果的に活用した深い学びの実践。	
			生徒の学力に準じた教材を使用することにより、わかる授業を行う。 ①	A			
現代社会の課題を最新のニュースからとりあげ、世界の実情を理解させる。 ①		B					
適切な学習評価	生徒の実態に応じた基準を設定することにより、適切な評価を行う。 ③	B					
成績不振者に対する適切な指導	学習に関する生徒の考えを聞き、また発問を多くするなど、成績不振に陥らないよう創意工夫した授業を行う。 ①	B					
	定期的にノートを提出させ、生徒が成績不振に陥らないように注意深く指導する。 ②	B					

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期) への主な課題	
教科	数学	学習意欲の湧出と基礎学力の定着	重点的に基礎の反復練習を行い、つまづきの克服や基本的計算力を身につけさせる。 ① B	B	義務教育段階の既習事項を復習する時間を多くとる。各授業時間の目標を明確にし、生徒の達成状況を把握する。
		思考力・判断力・表現力の向上	学習内容や生徒の状況に合わせたプリント教材を使用し、学習意欲が向上する授業を展開する。 ① A		
		指導方法・教材等を工夫し、数学的な見方や考え方ができるようにする。 ① B			
	理科	学習意欲および基礎学力の向上	授業展開と教材・教具を工夫し、思考力・表現力の向上を図る。 ① B	B	生徒の学習への主体的な取り組みを引き出す授業展開の工夫。
			小テストでの反復学習やプリント学習での復習を通して基礎学力の定着を図る。 ① B		
			生徒の実態にあわせて教材・教具や授業展開を工夫し、科学的思考力を身につけさせる。 ① B		
	保健体育	体力の向上を図る	体ほぐし運動・体作り運動を通して身体の柔軟性・基礎体力の向上を図る。 ① A	A	クラスが少人数のため、ゲームを行える種目が限定されてしまう。他学年との合同授業の回数を増やす。
		集団行動の基本指導	集団行動を通して姿勢・方向転換・足踏み・礼の基本動作の習得に努める。 ② A		
		生涯にわたってスポーツを親しむ能力を育てる	バドミントン・卓球・フットサル・バスケットボール等の種目選択をすることで得意な種目を作り、生涯を通してスポーツを継続する態度育成に努める。 ① B		
	芸術	表現力の向上を図る	個別指導を丹念に行い、表現力の基礎を向上させる。 ① B	B	個別指導の充実と用筆法の定着率の向上。作品を相互鑑賞する時間の確保。
		鑑賞の基礎的能力を伸ばす	さまざまな作例を取り上げ、幅広い表現活動を促す。 ① C		
		創造の喜びを実感する授業への取り組みに努める	生徒が興味を持つような題材を設定して、意欲を持って制作活動ができるようにする。 ① B		
		作品は必ず完成させ、制作の達成感を味わわせる。 ① A			
	外国語	基礎学力の向上と定着	生徒の実態に応じた授業を展開し、基礎的な英語表現ができるようにする。 ① B	B	ヒアリング・スピーキングの練習を繰り返し、英語に親しむ。積極的に発話できるよう導く。
		コミュニケーション能力を培う	ノートやプリントファイル等の提出物をきちんと提出させ、積極的に英語で表現する態度を育てる。 ② B		
		簡単なフレーズや英文を見たり聞いたりして、相手の意思を汲み取ろうとする態度を育てる。 ① B			
	家庭	家庭に関する知識や技術の習得に努める	相手に自分の意思を伝えられるよう、簡潔な英語を用いて表現する力を養う。 ① B	B	感染症対応策を検討し、各実習を実施する。
		生徒の実態に応じたプリント等を活用して、基礎的な知識をつけさせる。 ① A			
		調理実習を通して、生活に必要な基礎的知識や基本的な技術を身につけさせる。 ① D			
	工業	生活課題を見出し、これを改善しようとする態度を育てる。	実習・実験等を通して、家庭に関する興味・関心を深めさせる。 ① B	B	資格取得者数の増加。実習の施設、設備、備品、材料の整備。学力差に対応する授業展開の工夫。
基礎・基本的な学力・技能等の向上		家庭生活の身近な話題により、家庭生活における問題点や課題を見つけ出し、改善しようとする意識を育てる。 ① B			
専門教科としてわかる授業を推進し、基礎学力の向上と定着を図る。 ① B					
指導方法・教材教具等を工夫し、自己表現力・情報活用能力の向上に努める。 ① B					
実習における技能・技術の習得に努め、実習終了後の清掃・安全教育の徹底を図る。 ② B					
成績不振者に対する適切な指導	授業内容の理解や基礎学力の定着に努める。 ① A	B			
生徒へ授業の評価を実施し、その分析結果を授業改善に反映する。 ① B					
資格検定取得の奨励	幅広く資格試験へチャレンジさせるよう努める。 ⑦ B	B			
必要に応じた指導・補習の設定に努める。 ⑦ B					
教務	各学年、各校務分掌、各教科との連携	生徒情報を共有し、指導に役立てるための情報交換会を毎日実施する。 ⑤ A	B	欠席が少ない生徒と欠席が多い生徒の授業展開が難しい。ホームページ更新を定期的実施。	
		欠課時数の連絡は、欠課時数連絡表を利用するとともに、教科担任からクラス担任へ随時報告する。 ⑤ A			
		見やすく活用しやすいように文書やデータを整理し、情報の共有をしやすいように工夫改善する。 ⑤ A			
	円滑な学校運営	職員間の報告・連絡・相談を密にし、問題点に速やかに対応できるようにする。 ⑤⑬ A	B		
		学校行事等の精査に努め、効率的な運用を図る。 ⑨⑭⑮ B			
	教育課程の検討	生徒の実態及び社会の要求に即した新教育課程を構築する。 ① A	B		
計画的な学習指導	シラバスを作成し、計画に沿った学習指導と評価の一体化を推進する。 ① B				
単位制総合学科としての対応	単位制総合学科としての教育環境の整備・充実に努める。 ④ B				

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期) への主な課題	
生徒指導	基本的生活習慣の確立	生徒面談を定期的に、また必要に応じて実施し、生活環境を確認し、アドバイスする。	④	B	規則正しい生活を心がけさせる。 礼儀正しい態度で人と接するように促す。 物事の善悪の正しい判断を身につけさせる。
		挨拶や言葉遣いを身につけさせるとともに、健全な生活リズムを確立させる。	④	B	
	安全で楽しい学校生活の実現と心の教育の充実	欠課時数連絡表を活用し、欠席・遅刻・早退の減少を図り、毎日登校する習慣を育成する。	④	C	
		自転車・普通自動車・原動機付自転車の点検・施錠を徹底し、盗難・破損・事故の防止に努める。	④	B	
	問題行動の未然防止	職員やスクールカウンセラーに、生徒が悩みなどを気軽に相談できる環境を整える。	⑤	B	
進路指導	3・4年間を見通した進路指導体制の充実	生徒の現状や発達段階に応じて、教職員全体で一貫した指導を行う。	⑥	B	1・2年次生に対する進路指導の充実。 ハローワーク等の外部機関との連携。
		適切な時期に進路講話や自立支援講習などの進路行事を実施する。	⑥⑦	A	
		早い時期から生徒の進路希望を的確に把握し、一人ひとりに合った指導を行う。	⑦	B	
	進路情報の提供と生徒の状況に応じた指導	求人票や募集要項等の情報を適宜生徒へ提供し、進路選択を支援する。	⑦	A	
		ハローワークの利用や受験報告書・進路資料等の活用を推進する。	⑦	B	
	望ましい職業観・勤労観の育成	教職員全体で履歴書の書き方指導や面接指導を実施し、進路実現を支援する。	⑦	A	
		「産業社会と人間」の授業やLHR等をとおして、勤労や職業の意義について理解させる。	⑧	A	
	資格検定取得の推進	インターンシップを実施し、自分の適性や将来について深く考えさせる。	⑧⑬	A	
		情報を的確に伝え、資格取得や検定受験に積極的に取り組ませる。	⑦	B	
	特別活動 (保健厚生を含む)	学校行事を通じた協調性・責任感の育成	国家資格取得や検定合格を推進するため、補講などの支援体制を強化する。	⑥⑦	
学校行事を工夫・改善し、仲間との連帯感や協調性・忍耐力を深め、学校への帰属意識を高揚させる。			⑨	B	
定通大会への積極的な参加とその継続		学校行事を通して、協調性・責任感及び成就感を体験させることに努める。芸術鑑賞会を実施する。	⑨	B	
		生徒は全員参加とし、各自が自主的・自発的な活動が促進できるよう適切な指導・援助を行う。	⑩	B	
健康教育を推進及び健康に対する意識の高揚		活動を通して生徒が、安全や健康に気を配ると共に、運動の楽しさや喜びを味わえるよう努める。	⑩	A	
		機会を捉えた保健指導を行い健康の大切さを伝え、健康診断その他保健行事に多くの生徒が受診、参加するよう指導する。	⑤	B	
		生徒の心身の健康及び体力向上に関する指導を、全職員が共通理解のもとに、日常的に行う。	⑤	A	
		個別健康相談活動を通して健康状態や生徒の情報を把握し適切な対応に努める。	⑤	A	
健康で安全な学校環境の整備及び美化		生徒、教職員のニーズに合わせてスクールカウンセリングを積極的に活用し、生徒の悩み・不安等を軽減させ学校生活に集中できるように努める。	⑤	A	
		全生徒が積極的に環境美化を心がけるように指導する。	④	A	
学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返り、新たな学習や生活への意欲や将来の生き方を考えたりする活動を支援する。	防災についての正しい知識を持たせ、非常時に適切な行動が取れるように指導する。	④	A		
	年次もしくは入学から卒業等の中・長期的な振り返りと見通しができるよう指導する。	⑦	B		
	記録の活動に止まることなく、キャリアパスポートを用いて話し合い、意思決定などを行うなどの学習過程につとめる。	⑧	B		
総務	保護者のPTA活動への参加	担任と連携し保護者がPTA活動へ無理なく参加出来るように努める。	⑤	B	学習支援サポーターの役割を明確にし、利用率を上げる。 日立地区定通教育振興会事務局の事務処理効率を上げる。
	学習支援サポーターとの連携	学習支援ボランティアと連携し、基礎的な学習内容の復習及び日常生活の相談等を支援する。	⑬	C	
	地域や企業との連携	日立地区振興会企業への連絡を密にし、日立地区の企業との連携を図る。	⑬	A	
		日立地区定通教育振興会事務局の運営に努める。	⑬	A	
	奨学金制度の活用	奨学金制度を適切に活用するため、情報提供に努める。	⑤	B	
		労働の大切さを指導し、夜食・教科書費補助の活用を促す。	⑤	B	

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	
1年次	生徒理解の推進	生徒の状況を的確に把握するため、定期的な面談以外にも随時面談を行い、きめ細かな指導を図る。	④	B	B 基本的生活習慣の確立を目指す。 日中の勤務（アルバイト等）を奨励し、 社会での経験をさせる。 基礎学力を身につけさせ、学習に対する 積極的な姿勢をつくる。
	保護者等との連携	問題がある場合は、家庭訪問や面接などを積極的に実施し、迅速かつ適切な指導を行う。	⑤	B	
	基本的生活習慣の確立	明るく元気にあいさつし、正しい言葉遣いができるよう指導する。	④	A	
		生徒の勤務先等を把握し、勤めていない者に対しては就職の支援を行う。	⑥	B	
		できるだけ欠席・遅刻・早退をしないよう呼びかける。欠席をする場合は連絡を徹底させる。	④	A	
		教室内の美化を図り、ゴミの始末等がしっかりできるようにする。	④	A	
	能力適性の把握及び資格取得等の奨励	4年間（3年間）を見据えた学習計画に基づき、基礎的基本的な知識の定着を図る。 資格取得を奨励し、積極的に挑戦することを促す。	① ⑦	A B	
	引き継ぎの徹底	進級等での生徒に関する情報の引き継ぎを適切に行う。	⑤	B	
会計の収支決算	年度ごとの会計決算報告書の収支決算を明確に行う。	⑤	A		
2年次	生徒理解の推進	生徒の状況を的確に把握するため、定期的な面談以外にも随時面談を行い、きめ細かな指導を図る。	④	A	B 基本的生活習慣の確立を目指す。 資格取得の奨励や進路に対する意識の向上を図る。
	保護者等との連携	必要に応じて電話連絡、家庭訪問などを実施し、迅速かつ適切な指導を行う。 成績不振者に個別面談を行うと共に、家庭と連携して成績不振科目の解消に努める。	④ ②	A B	
	基本的生活習慣の確立	日常生活を通して、基本的生活習慣の確立に努める。	④	B	
		社会人としての心構え、挨拶や礼儀作法を身につけさせる。	④	B	
	資格取得の奨励	資格取得を機会ととらえて生徒に声を掛け奨励する。	⑦	B	
	引き継ぎの徹底	進級等での生徒に関する情報の引き継ぎを適切に行う。	⑤	B	
	会計の収支決算	年度ごとの会計決算報告書の収支決算を明確に行う。	⑤	A	
3年次	生徒理解の推進	日頃から生徒を注意深く見守り随時面談を行うことにより、生徒理解や状況把握に努める。	④	A	B 卒業後の進路希望実現に向けて、生徒の 意識向上、基本的生活習慣の定着を図る。
	保護者等との連携	迅速かつ適切な連携を図るため、必要に応じて電話連絡、家庭訪問などを実施する。 成績不振者に個別面談を行うとともに、家庭と連携して成績不振の改善に努める。	④ ②	A B	
	基本的生活習慣の確立とソーシャル スキルの向上	日常生活を通して、基本的生活習慣の確立に努める。	④	B	
		社会人としての心構え、挨拶や礼儀作法を身につけさせるとともに、コミュニケーション能力の向上を図る。	④	B	
	資格取得の奨励と進路目標の実現	資格取得を積極的に奨励し、将来の進路実現を意識させる。	⑦	B	
		インターンシップを活用し、勤労観・職業観の育成を図る。	⑧	B	
	引き継ぎの徹底	早期に生徒の進路希望を把握し、個々の希望に応じた適切な進路指導を行う。	⑥	B	
会計の収支決算	年度ごとの会計決算報告書の収支決算を明確に行う。	⑤	A		
4年次	生徒理解の推進	生徒の状況を的確に把握するため、随時面談を行い生徒理解に努める。	④	A	A 進路意識の向上。 社会人としての心構えや礼儀作法の習得。
	保護者等との連携	迅速かつ適切な連携を図るため、必要に応じて電話連絡、家庭訪問などを実施する。 成績不振者に個別面談を行うと共に、家庭と連携して成績不振の改善に努める。	④ ②	A A	
	基本的生活習慣の確立とソーシャル スキルの向上	日常生活を通して、基本的生活習慣の確立に努める。	④	B	
		社会人としての心構え、挨拶や礼儀作法を身につけさせるとともに、コミュニケーション能力の向上を図る。	④⑥	B	
	資格取得の奨励と進路目標の実現	資格取得を奨励し、進路実現に生かす。	⑥⑦	B	
		早期に生徒の進路希望を把握し、個々の希望に応じて適切な進路指導を行う。	⑦	A	
会計の収支決算	年度ごとの会計決算報告書の収支決算を明確に行う。	⑤	A		
特色ある 学校作り	本校教育の特色化を推進する	中学校へ訪問するなどして、定時制総合学科への理解と入学生徒の確保に努める。	⑪	C	B 定時制独自に中学校訪問を実施。
		1年次対象に2年次より普通系列か工業系列かを選択できるように、ガイダンスを行う。	⑭	A	
		3年間で卒業することができるメリットを活かし、学習意欲の向上を図る。	③	B	

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない